

# 産業界と教育現場の連携を推進する コーディネーターに関する研究会 (第2回)

令和8年2月20日

商務・サービスグループ サービス政策課



# 本研究会の目的

多様な学びの充実に向けた「共助」を推進するため、

- どのような施策が有効か
- また、その施策を実行するためにどのような道筋が望ましいか

について委員の皆様の見解を取りまとめる。

# 研究会名簿 ※五十音順

座長	・ 細田 眞由美	兵庫教育大学 客員教授
委員	・ 岩渕 琢磨	岩渕薬品株式会社 代表取締役社長、ファミリービジネスネットワークジャパン 理事
	・ 岩本 悠	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事
	・ 鍵本 芳明	岡山大学学術研究院教育学域 教授
	・ 工藤 和志	東京都葛飾区立青葉中学校 校長 ※全日本中学校長会よりご推薦
	・ 斎藤 祐馬	デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社 代表取締役社長 ※経済同友会よりご推薦
	・ 繁吉 健志	山口県教育委員会 教育長 ※全国都道府県教育長協議会よりご推薦
	・ 利根川 裕太	特定非営利活動法人みんなのコード 理事会長、横浜美術大学 客員教授
	・ 中原 健聡	認定特定非営利活動法人Teach For Japan 代表理事・CEO
	・ 宮本 泰俊	日本生命保険相互会社 財務企画部担当部長 兼 責任投融資推進室室長
	・ 室井 照平	福島県会津若松市 市長
	・ 山内 清行	日本商工会議所 企画調査部長
オブザーバー	・ -	内閣府 地方創生推進事務局
	・ -	総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課
	・ -	文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課

# ゲストスピーカー ※五十音順

ゲストスピーカー

- 小牧 瞳 千葉大学アントレプレナーシップセンター 特任助教
- 長岡 駿介 株式会社 プラスエム 代表取締役社長
- 小寺 良介 一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 事務局長

## 第2回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:05 開会挨拶・委員紹介 (3分)
2. 10:05-10:10 第1回研究会の振り返り、第2回研究会の説明 (12分)
3. 10:10-10:30 意見交換① : 「共助の必要性」について (15分)
4. 10:30-11:55 意見交換② : 「共助推進に向けた施策」について (85分)
  - ゲストスピーカープレゼン (10分×3団体 : 計30分)
  - 意見交換 (55分) ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
5. 11:55-12:00 閉会挨拶 (5分)

## 第2回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:05 開会挨拶・委員紹介 (3分)
2. 10:05-10:10 **第1回研究会の振り返り、第2回研究会の説明 (12分)**
3. 10:10-10:30 意見交換① : 「共助の必要性」について (15分)
4. 10:30-11:55 意見交換② : 「共助推進に向けた施策」について (85分)
  - ゲストスピーカープレゼン (10分×3団体 : 計30分)
  - 意見交換 (55分) ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
5. 11:55-12:00 閉会挨拶 (5分)

# 研究会の各回の位置づけ

第1回： 共助推進のための施策	第2回： 共助推進のための施策	第3回研究会（総括・まとめ）
<p>共助推進のためにどのような施策が有効か議論を行う</p> <p><u>主な意見交換内容</u></p> <p>共助推進のために、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. どのような施策が有効か</li><li>2. コーディネーターは有効な施策となりうるか</li></ol>	<p>有効な施策を実行するためにどのような道筋を描くべきか議論を行う</p> <p><u>主な意見交換内容</u></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 第一回研究会で出た共助の必要性について</li><li>2. 共助推進に向けた施策について</li></ol>	<p>第1・2回研究会での議論を踏まえて成果物を取りまとめる</p> <p><u>主な意見交換内容</u></p> <p>検討中</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 1月15日（木） 10:00-12:00</li><li>• オンライン</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2月20日（金） 10:00-12:00</li><li>• オンライン</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 3月2日（月） 10:00-12:00</li><li>• ハイブリッド（対面&amp;オンライン）</li></ul>

# 第1回研究会 意見交換サマリ

## ① 子ども起点(逆ピラミッド型)で共助のあり方を考えることが重要

- 「大人起点の検討だと、子どものモチベーションが上がらない。子どもたち起点で『やりたい』ことから企業連携につなげることが重要」
- 「子どもの関心を起点にプログラムを考え、その取組が企業の課題解決にも繋がることを目指している」
- 「子どもたちが効果的に学べるかが重要。探究学習を相談できる仕組みがない自治体では、学校単独での企業連携は難しい」

## ② 共助を促進する上で、コーディネーター施策は有効

- 「探究学習を進める際にコーディネーターは有効。特に高校生の探究学習の設計では重要な役割を果たす」
- 「コーディネーターは、学校と企業のニーズを踏まえたベストなマッチングを実現する役割を担う」
- 「単発ではなく、毎年継続的に連携できる関係性をつくることが重要であり、その支援にコーディネーター施策は有効」

## ③ ただし、コーディネーター施策の推進にあたっては、受入体制、コスト、人材確保などの課題を検討することが必要

- 「教員と企業の間にいるため、コーディネーターは孤独を感じることもある。特に、教員の自前主義の中で入り込みづらい」
- 「コーディネーター配置に関する最大の悩みは、学校側の受け入れ態勢が整っていないこと。現場と関係性を作ることが大切」
- 「企業もコーディネーターのコストを負担する意識が重要。準備コストが見えないまま進むと、継続性が担保できない」
- 「コーディネーターは難易度が高く、企業内にも担い手候補は多くない。兼務を前提にチームとして人材提供する形が現実的」

## ④ コーディネーター施策に加え、地域や企業を集合体として捉えた共助の仕組みづくりも検討すべき

- 「どのような社会・地域をつくりたいのかというビジョンを描くことが重要。その上位目標を企業とも共有しながら連携していく必要がある」
- 「なぜ教育に力を入れることが人口減少対策や産業振興につながるのか、地域に理解してもらうための意識変革が不可欠だった」
- 「集合体の視点で施策を設計し、特定の企業に負担が偏らないようにすべき。社会全体として共助に関わる人材輩出を進める」
- 「手を挙げた企業のみが共助にかかわるのではなく、多様な企業との連携につながる仕組みづくりが必要」
- 「個社のメリットだけでなく、社会的価値の創出を企業群で進めることが重要。プラットフォームやエコシステムとして広げていくべき」

# 研究会の各回の位置づけ

## 第1回： 共助推進のための施策

共助推進のためにどのような施策が有効か議論を行う

### 主な意見交換内容

共助推進のために、

1. どのような施策が有効か
2. コーディネーターは有効な施策となりうるか

- 1月15日（木） 10:00-12:00
- オンライン

## 第2回： 共助推進のための施策

有効な施策を実行するためにどのような道筋を描くべきか議論を行う

### 主な意見交換内容

1. 第一回研究会で出た共助の必要性について
2. 共助推進に向けた施策について

- 2月20日（金） 10:00-12:00
- オンライン

## 第3回研究会（総括・まとめ）

第1・2回研究会での議論を踏まえて成果物を取りまとめる

### 主な意見交換内容

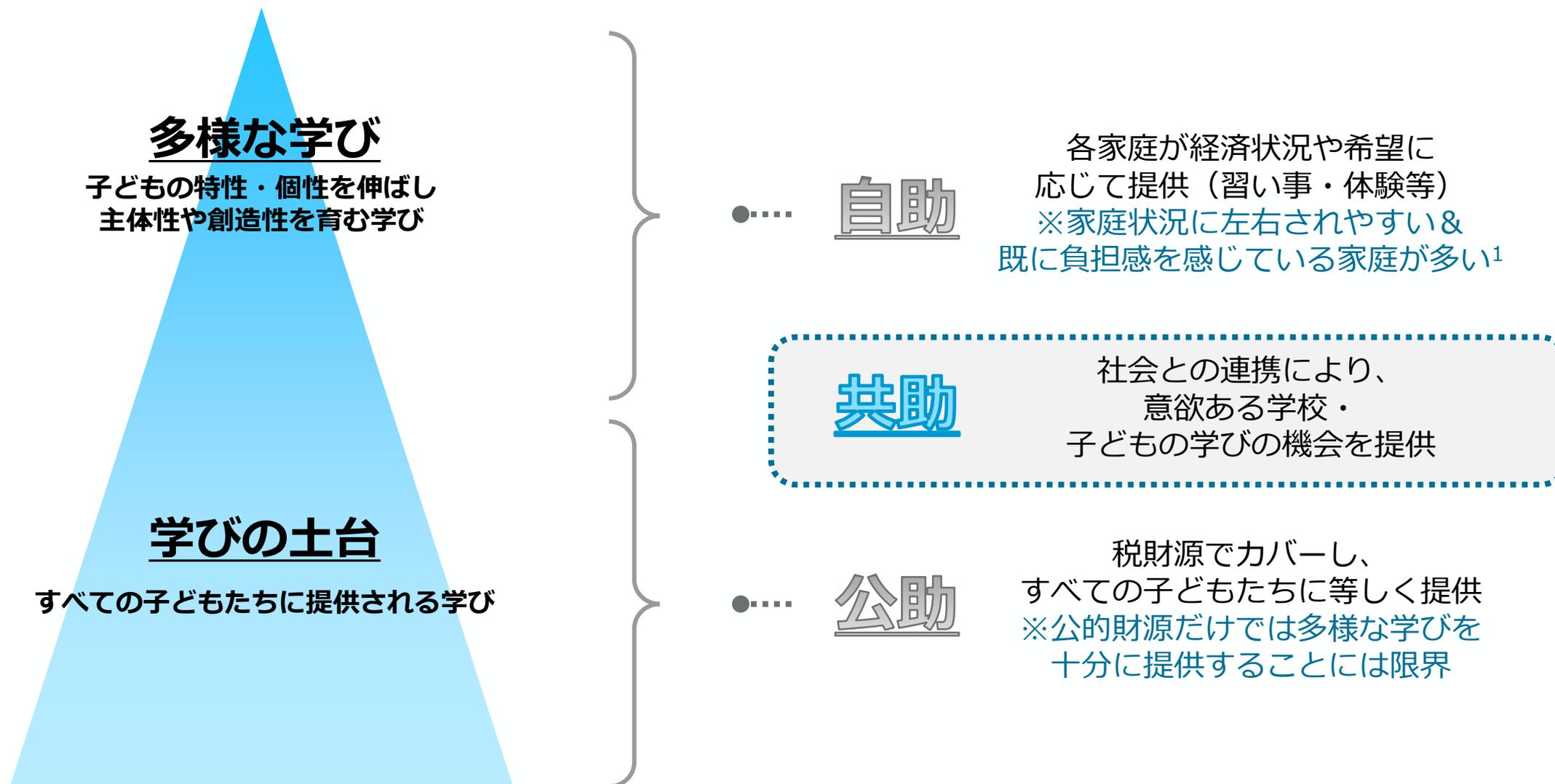
検討中

- 3月2日（月） 10:00-12:00
- ハイブリッド（対面&オンライン）

## 第2回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:05 開会挨拶・委員紹介（3分）
2. 10:05-10:10 第1回研究会の振り返り、第2回研究会の説明（12分）
- 3. 10:10-10:30 意見交換①：「共助の必要性」について（15分）**
4. 10:30-11:55 意見交換②：「共助推進に向けた施策」について（85分）
  - ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
  - 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
5. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

# 多様な学びの場を充実させるためには「共助」が必要



<sup>1</sup> ソニー生命保険株式会社「子どもの教育資金に関する調査 2025」（2025年3月13日）によると、保護者の6割以上が教育費負担を既に「重い」と感じている。

# 「共助」の価値最大化には、持続性・継続性を追求することが重要

- 産業界と教育現場が連携し、単発の取組だけではなく、持続性・継続性のある学びを推進。
- 1つの企業に限らず、複数の企業とも連携することで、持続性・継続性を向上。

単発的

ヒト

- 町の事業者で単発で話を聞く
- 学校・地域のイベントに企業からボランティアを呼ぶ

モノ

- 教育に関するイベントを産業界を巻き込んで単発実施
- 企業に工場見学に行く
- 企業から単発で物品寄附をもらう

カネ

- 単発でXX万円寄附してもらう

持続的・継続的

- 企業から**出向**の形で、教員免許保持者を教員として派遣
- 企業で働く方が、**副業**として週2回は学校・自治体に勤務

【事例】株式会社ダイセル

- 企業版ふるさと納税を通して、シニア人材を鹿児島県和泊町へ派遣。
- 理科実験補助員・講師として公営塾にて活躍。

- シリーズものの**出前授業やイベント**
- **複数年度にまたがる継続的**な出張授業・物品寄付

【事例】株式会社ファミリー

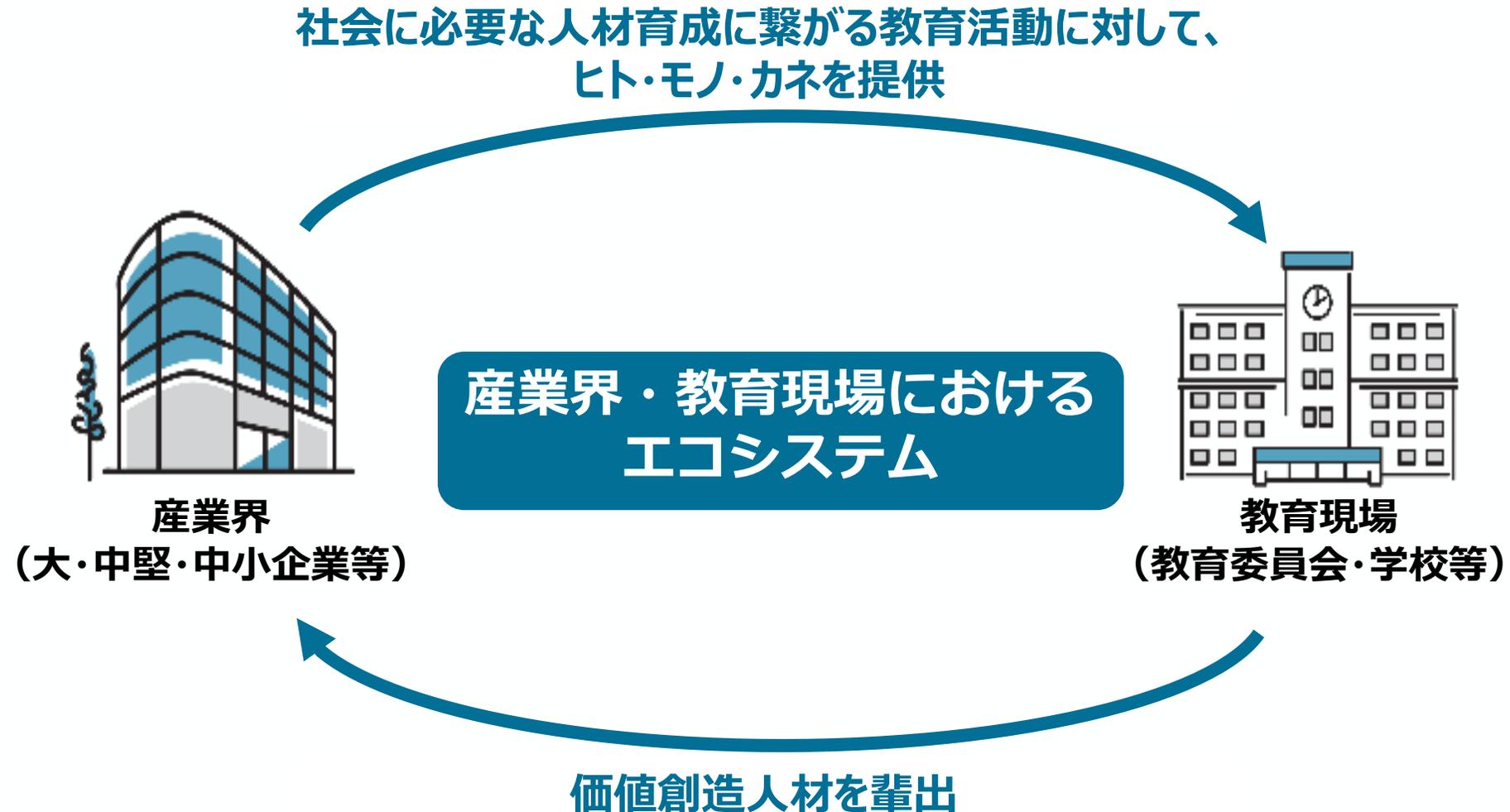
- 岐阜県可児市にて、周辺の地域企業を集め、子供たちへの職業体験イベントを毎年運営。
- 行政も巻き込み実施。

- **毎年継続的**な寄附・拠出
- **運用益**による、継続的な寄附

【事例】神山まると高専

- ビジョンに共感した民間企業11社より、1社約10億円、計100億円の資金を獲得。
- 基金を設定してファンドにて運用し、安定した奨学金財源を確保。

# 共助の取組を通じて、産業界・教育現場におけるエコシステムを構築



## 意見交換のテーマ①

それぞれの立場からして、  
共助は何のために必要か。

## 第2回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:05 開会挨拶・委員紹介 (3分)
2. 10:05-10:10 第1回研究会の振り返り、第2回研究会の説明 (12分)
3. 10:10-10:30 意見交換① : 「共助の必要性」について (15分)
4. **10:30-11:55 意見交換② : 「共助推進に向けた施策」について (85分)**
  - **ゲストスピーカープレゼン (10分×3団体 : 計30分)**
  - **意見交換 (55分) ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む**
5. 11:55-12:00 閉会挨拶 (5分)

## ゲストスピーカーによるプレゼン（各10分程度）

- 長岡 駿介（株式会社 プラスエム 代表取締役社長）
- 小牧 瞳（千葉大学アントレプレナーシップセンター 特任助教）
- 小寺 良介（一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 事務局長）

# 多様な学びの充実に向けた課題と対応策の例



## 産業界における課題

(企業・団体)

多様な学びの充実のため、  
「共助」の推進により  
産業界・教育現場双方に効果が  
もたらされる仕組みの構築

## 教育現場における課題

(自治体・教育委員会・学校)



### 教育関与への意欲と相談先の不足

#### (1) 教育への関心が関与・貢献につながりにくい

教育現場を理解する機会が少なく、関心はあっても具体的な取組に繋がらない。

<対応策の例>

- 教育への関与がマーケティング・人事戦略・事業開発等にもたらす効果の周知
- 教育との連携に積極的な企業の取組の表彰

#### (2) 教育ニーズに合致するコンテンツがわからない

自社の技術やノウハウが、児童・生徒の学びに役立つ材料となるか否か、判断がつかない。

<対応策の例>

- 学習コンテンツとなり得る企業の魅力発信のための相談体制の整備

#### (3) マッチング機会が不足している

協働に前向きな教育現場が分からず、連携先選定が難しい。

<対応策の例>

- 産学連携に積極的な自治体・学校をリスト化・公表

### 制度的制約とノウハウの不足

#### (1) 財政・制度的制約ゆえに踏み出せない

限られた予算と制度的制約のため余裕がない。

<対応策の例>

- 産学連携の取組に対して一定の予算を配分・確保
- 公的財源以外（企業からの寄付等）の資金を活用した先行事例を周知・後続事例の組成

#### (2) 新たな取り組みに対するハードルが高い

現場の教員の負担増につながるとの懸念から忌避される。

<対応策の例>

- 現場負担を抑えた先行事例の収集・取組ノウハウの横展開

#### (3) 連携等を担う人材・マッチング機能が不足している

どの企業がどのような学習コンテンツを提供してくれるかわからず、相談を始めることが難しい。

<対応策の例>

- 企業への相談方法について、教育現場に助言する機能の整備
- 教育現場と企業の相談機会の設定

# 共助の観点から有効と考えられる施策案（委員からの意見を基に整理）

施策の方向性

施策の具体例

	施策の方向性	施策の具体例
I. 目指す社会像・理念	1. 目指すべき <b>社会ビジョン</b> の明確化	<ul style="list-style-type: none"><li>共助の定義・世界観の明文化</li><li>共助を通じた「目指す社会像」の提示</li></ul>
II. ビジョン実現のための方策	2. <b>社会システム</b> への位置づけ	<ul style="list-style-type: none"><li>継続的な共助エコシステムの設計</li><li>各地域におけるコンソーシアムの構築</li><li>共助における企業が担う役割の類型化</li><li>企業群単位での参画モデルの設計</li></ul>
	3. 産業界と教育現場の <b>Win-Win構造</b> の設計	<ul style="list-style-type: none"><li>「社会価値×経済価値」の両立モデルの設計</li><li>企業へのメリットの可視化（人材育成・ブランディング等）</li><li>共助に取り組む企業の表彰制度の創設</li><li>企業が共助に取り組むインセンティブとなる税制改正</li><li>経営者レベルの意識醸成の機会の創出</li></ul>
	4. <b>コーディネート機能</b> の制度化	<ul style="list-style-type: none"><li>コーディネーター配置の促進</li><li>コーディネーター輩出・質担保を促す認証制度の設計</li><li>寄付の受付～学校への分配を一元的に行う窓口の創設</li></ul>
	5. <b>マッチング基盤</b> の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>全国的な共助の事例のデータベース構築</li><li>マッチングのための地域プラットフォームの整備</li></ul>
	6. <b>情報共有・可視化の仕組み</b> の設計	<ul style="list-style-type: none"><li>共助に係るKPIの設計</li><li>共助の取組成果の共有</li></ul>

## 意見交換のテーマ②

**共助推進のために、  
どのような施策が考えられるか。**

## 第2回研究会 アジェンダ

1. 10:00-10:05 開会挨拶・委員紹介（3分）
2. 10:05-10:10 第1回研究会の振り返り、第2回研究会の説明（12分）
3. 10:10-10:30 意見交換①：「共助の必要性」について（15分）
4. 10:30-11:55 意見交換②：「共助推進に向けた施策」について（85分）
  - ゲストスピーカープレゼン（10分×3団体：計30分）
  - 意見交換（55分） ※ゲストスピーカーへの質疑応答含む
5. 11:55-12:00 閉会挨拶（5分）

# 研究会の各回の位置づけ

## 第1回： 共助推進のための施策

共助推進のためにどのような施策が有効か議論を行う

### 主な意見交換内容

共助推進のために、

1. どのような施策が有効か
2. コーディネーターは有効な施策となりうるか

- 1月15日（木） 10:00-12:00
- オンライン

## 第2回： 共助推進のための施策

有効な施策を実行するためにどのような道筋を描くべきか議論を行う

### 主な意見交換内容

1. 第一回研究会で出た共助の必要性について
2. 共助推進に向けた施策について

- 2月20日（金） 10:00-12:00
- オンライン

## 第3回研究会（総括・まとめ）

第1・2回研究会での議論を踏まえて成果物を取りまとめる

### 主な意見交換内容

検討中

- 3月2日（月） 10:00-12:00
- ハイブリッド（対面&オンライン）